

JTJ「学びを終えて」

神学部 信徒牧師科

JTJの学びがいよいよ終わろうとしている。寂しさと、うれしさが入り混じったような気持である。私は、仕事をしながら JTJ の学びを続けてきた。とても忙しくて、あきらめたくなるような時もあった。又教会の奉仕をしながら、そして超教派的な地域伝道をしながら学びを続けてきたので、その使命のゆえに早く終わりにしなければと焦ってしまうような時もあった。しかし、神様の助け、JTJのスタッフや先生方の導き、そして皆様の祈りによって、ここまで無事学びを続けてくることが出来た。そしていよいよ、その学びが終わろうとしている。本当に、感慨深い。

学び始めた目的は、聖書全体を系統的に学びたいと思ったからである。その頃、家でバイブルスタディをしたり、教会で日曜学校の教師をしたり、聖書を教える立場にあったが、聖書を学べば学ぶ程、いったいどうして自分のしている聖書の読み方が正しいと言えるのだろうか、自分の理解している聖書理解が正しいと言えるのだろうか、どのようにそのことを説明し弁証したらよいのだろうか、と深く考えるようになった。イエス様に対する信仰、聖書に対する信仰を持ちながらも、でも、はっきりと説明できない、どのように説明したらよいのか分からない、もどかしさを感じていた。そんな時、神学校で学んでみようと思った。きっとその答えが見つかり、日曜学校で聖書を教える上でも、地域伝道をする上でも、役に立つに違いないと思ったからである。

そして、JTJで学ぶことにした。その学びは期待以上だった。JTJの学びは多岐にわたっており、全体を包括していた。伝道について、聖書について、神学について、全体を学ぶことができた。そして、聖書の全体像が見えてくるようになり、少しずつ聖書についての考え方や説明の仕方を整理することができるようになってきた。自分はなぜこのような聖書の読み方をしているのか、どのようにそのことを説明したらよいのか、言葉で表現できるようになっていった。

さらに、説教やその他の授業の中で、同じ神学生の発表や発言などを聞くことができたことは本当に良かった。DVDを通しての学びであっても、教室の学生たちがとても身近に感じ、一人で学んでいるような感じがしなかった。それが励ましとなってここまで学び続けることができたのだと思う。

しかし、JTJの学びの中で、最も私が心開かれ、興味を引かれていったのは、現役の教師、牧師、巡回説教者の先生方の生の声を聞くことであった。先生方の生の声(本音の声)から伝わってくる牧会者の心、思い、考え、視点が、私にとってとても新鮮で、それを聞くたびに、その心や思いが私の心の中に広がり、授業が終わっても、いつまでも私の心に残り続けていた。「牧師先生は、このような思いで、牧会されているのか。このような思いで信徒を建て上げておられるのか。」「巡回伝道者の方は、このような苦労をされているのか。このようなことに気を遣っておられるのか。」「先生方は、このような心で信徒一人一人を心にかけておられるのか。」と。先生方の話を聞くたびに心打たれ、その言葉と思いが胸に響い

た。そして、教会について、牧会について、聖徒達を育てるということについて、今の私の教会の実情と照らし合わせながら、どのように教会を建て上げたらよいのか、どのように育てたらよいのかと、考えさせられるようになっていった。

振り返ると、私は、超教派的な地域伝道に関わって来た為、主に地域伝道と言う視点で教会の働きを見る事が多かったと思う。又は、信徒の視点に立って、教役者や教会の働きを見る事が多かったと思う。しかし、このように、JTJの学びの中で先生方の生の声を聞くことによって、牧会者の視点、さらには、巡回伝道者の視点でも、教会、伝道、牧会、礼拝、弟子訓練などを見るようになっていった。そして、教会全体の働きを、その視点で、理解するようになっていった。

JTJの学びを始める時には、全く期待していなかったことであったが、このようにして、私は、牧会者(教役者)としての視点が開かれ、心が開かれていった。そして、その働きを使命として受け取るようになった。そしてついに3年半前、私は、教会の牧会の訓練生として任命され、一つの教会を交代で牧会する任務を頂くことになった。そして、去年1月から正式に伝道師として任命され、さらに大きな使命と責任を受け取って、今、教会に仕えている。これらはすべて、神様の導きであったのだと思う。そして、神様がJTJを用いて私を育て、神様の使命を与えて下さったのだと思う。神様は、本当に人知を超えた、素晴らしいお方である。

聖書、神学、伝道について教えてくださった先生方、本音を語って牧会者、伝道者の心を教えてくださった先生方、DVDやレポートの件でいつも助けてくださったスタッフの方、そしてJTJを用いて私を育て導いてくださった神様に、心から感謝をお捧げしたいと思う。